

○概要

《開会挨拶》 松山市長 野志克仁

人口減少と高齢化社会を迎え、地方都市を取り巻く環境は非常に厳しく、地域の魅力を高め人に集まってもらうことが大切であり、松山市は今年から「宝磨き」と呼ぶ松山市の魅力を磨き輝かせる施策に取り組みます。

松山駅周辺地区は、まちの中心にあり公共交通がすぐそばに来ている「宝」である一方で、踏切での渋滞や安全性やまちの一体的発展も問題となっていました。そこで、鉄道高架と土地区画整理事業を行い、合わせて周辺の街路整備や路面電車を西環状線まで延伸する計画を立てています。

こうした事業の完成により、市の内外からのアクセスもよりスムーズに、さらに路面電車などの公共交通への乗り換えも快適・安全にできるようになり、まさに名実ともに交通の結節点となり、松山の宝の地区としてさらなる発展が望めます。

本日のシンポジウムを通し、その実現に向けた課題や今後の展開などを共に考え「宝磨きのまちづくり」に取り組む機会としていただきたい。

《基調講演》 ㈱日本政策投資銀行 地域企画部特任顧問 藻谷浩介

まず、県庁所在地の中では松山のようにJRの駅がまち外れにあるのは珍しいことではなく、それはヨーロッパも同じです。また、駅は旅行者のものであり、東京を含めて駅前が一番の繁華街ではなく繁華街があるまちは少ないということを理解して欲しい。

松山で計画が進む鉄道高架と周辺の整備ですが、鉄道高架は踏切を無くし鉄道と道路の安全性確保のために行うことであり、ヨーロッパなどでは既に完成しています。また、まちの真ん中でなく外れのため線路の高架もあまり景観を壊しませんし、加えて、その費用は国と県でほとんど賄われるものであり、早急に行うべきです。

松山の最大の問題は、中央構造線に隣接することから大地震への対処が必要なことです。特に駅周辺は建物が古く密集しており、道路を広げ歩道を設け民間建物の更新を促すことは重要と考えます。

ただし、その整備は身の丈に合わせて行うことが大切で、一大繁華街を目指すことは非常に大きな危険性があります。全国で駅前に巨大な商業施設を設けたところは非常に厳しい。それは、日本が現役世代減少と高齢者の増加が急速に進む社会となり購買層が減少しているからであり、松山も例外ではありません。

例えば、まちは花のようなものです。花とは家があり、事業所があり、病院・学校・役所・集会所といった公共機能があり、そして店があることです。そうした花を人口減少と高齢化社会で維持するためにはかつてのコンパクトなまちが望まれます。日本全国の他の都市はそれを取り戻そうとしていますが、松山のまちにはその形が残っており、より生かすことを考えなければなりません。

繰り返しになりますが、東京を含めて、駅前が一番の繁華街ではないということ
を認識しイメージ、ムードに流されず、駅を利用しない多数の市民から見て便利で
必要な施設は何かを冷静に考えて対処して欲しい。

《パネル・ディスカッション》

[安孫子]:平成 12 年度に松山市がアンケート調査した際には、JR 松山駅周辺にふさわしい将来像として「市の玄関口として風格のあるまち」という意見が多くありました。現在、愛媛県が鉄道高架事業を、松山市が土地区画整理事業という都市基盤整備をしていますが、それだけではまちの活性化にはつながりません。まちの活性化には市民の参加が必要だと思います。そこで、まず JR 松山駅の周辺という広い視点から話をはじめ、そして、地区の中心部に話を絞りながらパネル・ディスカッションを進めていきたいと思います。

甲斐先生、博多駅は改築や九州新幹線の開通で注目されていますがいかがですか。

[甲斐]:博多駅の魅力は、空港や繁華街の天神に非常に近い利便性にあるのではないのでしょうか。現在、大型商業施設が建てられ天神というまちの中心との商戦が非常に激しくなっています。ただ、福岡駅はやはり九州全体の玄関口であるので松山とは多少事情が異なると思います。

[安孫子]:村上さん、JR 富山駅の魅力はいかがですか。

[村上]:富山駅は平成 27 年の春の北陸新幹線の完成を目指し工事を行っています。富山市では残っていた路面電車や民間の鉄道などを活かした「串と団子」のコンパクトなまちづくりを行っています。その根っこになるところがちょうど富山駅だと思います。

[安孫子]:藻谷さん、数多くの駅を訪れ調査された経験からいかがですか。

[藻谷]:駅周辺開発において富山は頑張っていますが、その他の諸都市の結果は厳しいようです。福岡駅は昭和 45 年、大区画整理を行い駅自体を天神近くから大幅に移しました。現在、不十分であった商業施設建設を進めていますが、250 万都市圏でも中心と共倒れのような雰囲気を感じます。一見まちの中心ですが、本来の博多の中心から外れた駅はやはり地元の人々の生活事情にそぐわず、まちの勢力が二分されていると思います。やはり勢力分散というのは非常によくはないのではないのでしょうか。もうひとつは、あまりにも博多駅は概観もテナントなどの中身も東京周辺とか大阪と似ており九州らしくありません。

富山平野は広大ですのでゆったり散らばって住んでおられ、まちの中にほとんど人が住んでおりません。現在、奇跡的に残った電車も活かし、まちをコンパクトにつくり直そうと強い意志のもと進めておられます。一方、松山は自然にそのようなコンパクトなまちとして残っているので、今後、どう守り育てるかをぜひ考えて欲しい。

[安孫子]:野志市長、松山駅周辺の魅力や施策方針はいかがですか。

[野志市長]:松山駅周辺において愛媛県による鉄道高架事業、松山市による土地区画整理及び周辺街路整備事業などによりまちの一体化を進めながら、交通渋滞や防災面の改善、公共交通の利便性向上や駅西口設置などの施策を進めています。

[安孫子]:今度はJ R松山駅周辺を中心部分について伺いたい。松山市は「集客と集住」をコンセプトにハード整備を進めているようです。富山市ではまちの活性化においてJ R富山駅の魅力をどのように扱われていますか。

[村上]:J R富山港線を富山ライトレールとして整備しました。将来的には駅の南側の路面電車と富山駅舎高架下で接続してネットワーク化します。雨雪に濡れずバリアフリーに対応した施設となり新たなシンボルになると考えます。

[安孫子]:甲斐先生、利用者として駅に欲しい機能、役割、魅力についてはいかがですか。

[甲斐]:2つの面があると思います。1つは本来必要な使いやすさ。利便性や機能が非常に重要であると思っています。もう1つは魅力です。ある種、玄関口でもあることから、利便性とか機能とは直接的には関係ないが、人の心に訴えるような価値が必要かと思っています。

[安孫子]:藻谷さん、「集客・集住」というコンセプトでJ R松山駅周辺のまちづくりを進めていく上での機能や役割についてはいかがですか。

[藻谷]:便利で集まりやすい所に、具体的には、商業施設やオフィスでなく、これまで必要なながら建設用地が無くできなかった機能を盛り込む施設が必要だと思います。例えば、子育て支援、生涯学習、医療、福祉などがあるかもしれません。富山市では、グランドプラザという広場を設け、年間何百回もイベントを行っています。市街地にはそういうイベントで使う広場みたいなものがあってもいいのかなと思います。

[安孫子]:野志市長、J R松山駅周辺の施設構想についてはいかがですか。

[野志市長]:「宝を磨く」ことが大切で、その地域の特性を活かしていくことも大事だと思います。周辺には通信・情報関係の国の機関や企業が多いなどの特性も考慮し、バリアフリーへの配慮、太陽光などの自然エネルギーの活用なども検討していきたいと考えます。

今、私が宝磨きの「が」という街路整備のひとつに花園町の道の使い方を変えていきたいと思いますと申しているのも松山駅周辺の整備事業と関わります。これからの人口減少、高齢化社会を迎え集住がますます進んでいくものと考えられます。ですからこれからは、歩いて楽しいまちづくりが求められます。歩くことで健康になり医療費削減もできますので、その費用をほかの事業に回せます。公共交通の残る松山はこれができる都市ですので、皆さんと一緒に計画を立てていきたいと思っています。

[安孫子]:今後、こうした計画策定に市民参画をどのように進めるかが重要だと思

われます。富山市は市民参画をどのように進めてきたのでしょうか。

[村上]：タウンミーティングや出前講座を様々なメニューで行っています。市長出席によるものでは 200 回近くになります。事業計画・施策を早めにこまめに PR し、ほとんどの会議も公開し内容をホームページにアップしております。その内容もビデオ等の動画等を用いて市の施策を感覚的にも身近に実感してもらえよう進めております。

[安孫子]：甲斐先生、市民参画とまちづくりの関係性はいかがでしょうか。

[甲斐]：そもそも市民の皆さんと行政の関係というのは、本人と代理人の関係です。市民が自助、共助ができないものを行政が公助でやるわけですから、その本人と代理人との情報共有ができていないと本人が望む結果となりません。そのために市民参画というものが必要だと思います。しかし、対話は繰り返すことが必要で、本当に自分自身が望んでいることが判るための「気付きの時間」は必要かと思います。

また、市民参画は時間も手間も、場合によってはお金もかかりますが、その分、関わった人の満足度も上がるかと思えます。それは、自分が社会に関わっている、社会とつながっているという感覚です。市民参画はその意味でも重要だと思います。

[安孫子]：藻谷さん、市民参画と連携推進という点において松山ではどのような方向性が考えられますか。

[藻谷]：富山市における市民参画の例を紹介しますと、富山市民もタウンミーティングを合併前の旧市町村単位ではなくて、そのまた前の小学校単位ぐらいで延々とやられています。そして、地元側から自治会費で NPO などを作って協力するところに市もお金を出して一緒に進むやり方をされています。全部一律で同じことをやるのではなくやる気を見せたところだけやらせていくという市民参画です。

もう 1 つ重要な市民参画があります。例えば土地区画整理の場合、施行者の市や参加する一般市民でなく、地権者による参加です。地権者が前向きに協力し土地活用を勉強しないと成功しません。松山駅周辺では大丈夫ですか。

[野志市長]：大丈夫です。まさにその時期に来ておりますので。

[安孫子]：野志市長、市民参画と行政との連携という点でいかがでしょうか。

[野志市長]：松山市もタウンミーティングを行っています。やはり、オープンな会議により、市民の皆さんと一緒に創っていくということが大事と思っています。公民館の単位で 41 地区に分かれますが、その中でまちづくり協議会を設けてまいりません。前向きな組織に財源と権限と責任が下りてこそ本当の地域分権、地方分権だと思います。

この松山駅周辺地区でも役割分担し、一緒に計画を練り一緒にやるんだということでよい事業ができると思いますので、オープンな議論、シンポジウム、ワークショップ、セミナーを行い、地権者の方、事業者の方、市民の方々と一緒にやっていきたいと思っています。

あと1つ言わせていただくと、車中心の社会でなく、もう少し歩行者や自転車利用の人にもいいまちづくりが必要ということで、さきほど花園町の道路の使い方を変えようといいましたが、これも押しつけではなくて皆さんと一緒に、いいものに仕上げていきたいと思っています。

[安孫子]：甲斐さんにもう1度お聞きしたいのですが、いろいろな人による多様な参画を促すきっかけづくりにはどのような取り組みがあるのでしょうか。

[甲斐]：人に何かを気付いてもらう、あるいは人を結ぶ力を持つものとして、アートとかデザインの力を借りるというのはひとつの有効な方法かと思います。

例えば、アムステルダムで用いられた「アイアムステルダム」。「わたしはアムステルダム」というロゴでその愛着心のようなものを喚起する試みもひとつの方法かと思います。

[安孫子]：なるほど、デザインやアートできっかけをつくるということでしょうか。今後、JR松山駅周辺ではハード整備が進む中で市民参画が非常に重要になってまいります。パネリストの皆様のお話からもその根本にあるのはやはり対話ではないでしょうか。ルールづくりや情報を共有しながら、地権者、事業者、住民、世代が違う人、立場が違う人などさまざまな立場の方々が対話をしながら計画をつくって推進をしていくということが一番、大切なものではないかなと思われま。

そういう土壌は松山市も市民の皆さんにもあると思います。市民参画によって魅力のあるものは何であるか対話を進めていけたらと思います。

時間がまいりましたので、ここでパネル・ディスカッションを終わらせていただきます。